

税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。

最近、NISAという言葉が巷で話題



になっているのは皆さんもご存知でしょう。先日、日経平均が33年前の水準の36,984円を記録、その後も一進一退で高値での推移が続いていますので余計マスコミが騒ぎます。

日経平均が好調な要因としては、新NISAが始まり個人の資金が大量に投入

された事、円安の影響で我が国の輸出産業が好調な事、中国株式市場の急激な下落で資金が外国から日本に流れた事等が考えられます。

数年前に「レバナス」というハイリスク・ハイリターンの商品がYouTubeでもはやされ、その波に乗った若者が損失を被ったケースもあるようです。ネットの無責任な情報を安易に信じないでまず自分にあった商品は何かを知る事から投資はスタートです。

ざっくり「NISA」解説

NISAの内容を本気で知りたい方は、書店で関連図書が売られておりますのでご購入下さい。



今月は、「世間話」程度の情報を提供させていただきます。また、ページの都合上「ざっくり」と解説させていただきます

ので、説明不足で誤解を招く事があるかも知れませんが興味のある方はご自身でお調べ頂きたいと思います。

NISAって何？

ざっくり言うと有価証券から生じる「利益」が非課税になる制度です。何の利益かと言うと①「売却益」と②「配当(分配金)」です。

①株を売却した場合には儲けに対し20.315%の税金が差し引かれます。②配当

(分配金)を貰うと同様に税金が差し引かれます。これが非課税となるのですからとてもお得な制度です。

ただし条件が定められています。毎月積み立てる「つみたて投資枠」で年間120万円、自分の好きな時に買える「成長投資枠」で年間240万円が限度額となります。しかし一生涯で1,800万円(内、成長枠1,200万円)が限度とされています。

どこで買う？

① パソコンを使う方は、ネット証券(SBI、楽天等)一択です。iPadなどのタブレットでも可能です。

② パソコンが不得意で近くに相談できる人がいない場合には、銀行か対面型の証券会社(野村、日興等)となります。この場合、商品の選択肢が少なくなる場合がほとんどです。しっかり、相談して適切な商品を選んでみましょう。

何を買う？

NISA の対象となるものは国が指定しています。ざっくり、区分すると ① 上場された「個別株(トヨタ、日産等)」、② 上場された「投資信託(ETF)」、③ 非上場の「投資信託」となります。

皆さんのイメージでは個別株が投資のイメージが強いと思いますが、政府が投資を勧めるわけですから怪しい商品は排除されています。①の個別株は1社だけなので、上がった下がったと値動きに一喜一憂する事になります。私個人としては、②、③の投資信託(数十社から数千社のバック商品)がお勧めです。

その投資信託も上場されたものと非上場に分かれるから難解に思われるかもしれませんが、投資初心者には③の非上場の投資信託だけで十分でしょう。

ちなみに「つみたて投資枠」は③の一択です。しかも、③の投資信託は成長枠での使用も可能な優れたものです。

どれを買う？

ここからは、非上場の投資信託、一般的に「投資信託」と呼ばれる商品について説明さ

せて頂きます。「つみたて枠」の場合、インデックスという基準となる指数に連動する商品が基本です。

- ①日本国内の指数(日経平均、TOPXI 等)、
- ②米国又は世界の指数(NY ダウ、S&P500、NASDAQ等)
- ③日本や外国の債権(国債など)等

同じ指数の商品が数多く販売されていますので戸惑いますが、何の「指数」、「商品」が良いかは、ネット証券で人気のあるものを選ぶと間違いのないでしょう(手数料が安い、規模が大きいものが多い)。

どうやって買う？

①「つみたて枠」の場合には、毎月いくら積み立てるかを決め証券会社・銀行などで手続きします。②「成長投資枠」の場合、随時(資金がある時や割安な時)に自分自身の意思で追加購入します。後はほったらかし・・・が基本です。上がった、下がったは気にしなくてOKです(インデックスで人気の商品を選んだ場合)。

これまでの説明はあくまで、NISAに興味を持ってもらうためのものです。実際にNISAを始めるかどうかは、自分自身で調べてお考え下さい。

株を買うより時を買え

投資対象の選択が重要でないというわけではない。それよりも投資の時期を選ぶことの方がはるかに大切だという教え。(投資格言)

編集後記：

よく「社長は言う事がコロコロ変わる」と従業員が言います。しかし、これは外部環境が変わったから戦略を変えた場合がほとんどです。従業員はその点に気づかず愚痴を言います。私個人も半年前までは日本株が良いと思っていました(割安だから)、しかし今では高くて(高値掴み)買えません。だからこそ、投資に関してはスナップショットでの意見を鵜呑みにしてはいけないのです(寿)。